

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年11月8日

【四半期会計期間】 第81期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社モリタホールディングス

【英訳名】 MORITA HOLDINGS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中 島 正 博

【本店の所在の場所】 大阪市中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 (06)6208-1915

【事務連絡者氏名】 執行役員管理サービス本部長 金 岡 真 一

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 (06)6208-1915

【事務連絡者氏名】 執行役員管理サービス本部長 金 岡 真 一

【縦覧に供する場所】 株式会社モリタホールディングス東京本社
(東京都港区西新橋三丁目25番31号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第80期 第2四半期 連結累計期間	第81期 第2四半期 連結累計期間	第80期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	23,923	23,972	67,140
経常利益	(百万円)	1,155	1,084	6,429
四半期(当期)純利益	(百万円)	559	519	2,867
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	575	1,152	3,848
純資産額	(百万円)	36,294	39,983	39,197
総資産額	(百万円)	72,933	77,632	78,133
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	12.54	11.64	64.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	48.1	49.9	48.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	777	2,394	5,240
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,039	3,878	1,813
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	325	3,029	3,410
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	6,545	5,574	8,748

回次		第80期 第2四半期 連結会計期間	第81期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	14.98	17.38

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策、金融政策を背景に、一部に景気回復の兆しが見られたものの、円安進行による原材料価格の上昇や海外経済の下振れ懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、積極的な営業展開に加え、原価低減の推進を図るとともに、新製品の開発に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は23,972百万円（前年同四半期比48百万円増、0.2%増）、営業利益は1,028百万円（前年同四半期比106百万円減、9.4%減）、経常利益は1,084百万円（前年同四半期比71百万円減、6.2%減）、四半期純利益は519百万円（前年同四半期比40百万円減、7.2%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

消防車輛

消防車輛事業は、好調な受注が業績を牽引し、売上高は8,646百万円（前年同四半期比7.8%増）となり、セグメント利益（営業利益）は274百万円（前年同四半期比456.4%増）となりました。

防災

防災事業は、スプリンクラー設備工事の選別受注に加え、消火器及びスプリネックスの販売が第4四半期に偏重する見通しであるため、売上高は7,317百万円（前年同四半期比9.9%減）となり、セグメント利益（営業利益）は401百万円（前年同四半期比41.5%減）となりました。

産業機械

産業機械事業は、製品の納入が予定通り進捗したこともあり、売上高は2,232百万円（前年同四半期比0.9%増）、セグメント利益（営業利益）は30百万円（前年同四半期比71.1%減）となりました。

環境車輛

環境車輛事業は、受注が好調に推移しており、売上高は4,600百万円（前年同四半期比5.7%増）となり、セグメント利益（営業利益）は394百万円（前年同四半期比50.7%増）となりました。

自転車

自転車事業は、スポーツ車の販売が伸長したものの、軽快車の販売が低調であったこともあり、売上高は1,175百万円（前年同四半期比3.5%減）となり、セグメント損失（営業損失）は73百万円（前年同四半期は8百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の総資産は77,632百万円（前連結会計年度末比500百万円の減少）となりました。

流動資産は、36,349百万円となり4,055百万円減少しました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少7,055百万円の方で、たな卸資産の増加5,301百万円によるものです。

固定資産は、41,283百万円となり3,554百万円増加しました。うち有形固定資産は、29,997百万円となり1,458百万円増加し、無形固定資産は、1,407百万円となり200百万円増加し、投資その他の資産は、9,879百万円となり1,895百万円増加しました。

流動負債は、25,467百万円となり1,440百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少5,583百万円の方で、短期借入金の増加3,664百万円によるものです。

固定負債は、12,181百万円となり154百万円増加しました。

純資産は、39,983百万円となり786百万円増加しました。これは主に、四半期純利益の計上519百万円、為替換算調整勘定の増加329百万円の方で、剰余金の配当356百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の48.6%から49.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3,174百万円減少の5,574百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,394百万円の支出（前年同四半期は777百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益925百万円の計上、売上債権の減少額7,357百万円の方で、たな卸資産の増加額5,226百万円、仕入債務の減少額3,230百万円、法人税等の支払額2,118百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,878百万円の支出（前年同四半期は1,039百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,357百万円、投資有価証券の取得による支出1,429百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3,029百万円の収入(前年同四半期は325百万円の支出)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額3,504百万円の方で、配当金の支払額356百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は491百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増加又は減少はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当社グループの売上高及び利益は、消防車両事業の官公庁向け売上高の占める割合が高いこと等から、下期、特に第4四半期連結会計期間に偏る傾向にあります。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントごとの生産、受注及び販売の状況は次のとおりであります。

生産実績

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車両	8,621	+9.4
防災	3,410	14.7
産業機械	2,512	4.8
環境車両	4,644	+6.8
自転車	117	+27.8
合計	19,306	+1.9

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は、販売価格で表示しております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車輛	27,955	+6.2	23,876	0.7
防災	2,381	+11.5	1,004	+35.9
産業機械	3,450	+68.7	4,119	+12.9
環境車輛	5,372	+15.5	2,256	+17.0
合計	39,159	+11.4	31,257	+2.9

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は、販売価格で表示しております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
4 防災事業の防災機器部門及び自転車事業は見込生産を行っているため、上記の実績には含まれておりません。

販売実績

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車輛	8,646	+7.8
防災	7,317	9.9
産業機械	2,232	+0.9
環境車輛	4,600	+5.7
自転車	1,175	3.5
合計	23,972	+0.2

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(8) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完成したものは、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資額 (百万円)	完成年月
宮田工業(株)	栗原第二工場 (宮城県栗原市)	防災	消火器生産設備	782	平成25年5月

- (注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	46,918,542	46,918,542	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株で あります。
計	46,918,542	46,918,542	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		46,918		4,746		1,638

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	3,265	6.96
モリタ取引先持株会	大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル12階	2,529	5.39
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	2,087	4.45
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	2,082	4.44
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	2,048	4.37
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	2,007	4.28
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,409	3.00
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行 東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,118	2.38
モリタ従業員持株会	大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル12階	993	2.12
阿部律子	大分県大分市	861	1.84
計		18,403	39.22

- (注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社1,402千株
- 2 自己株式2,344千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合5.00%)は議決権がないため、上記の大株主から除外しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,344,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 43,754,000	43,754	同上
単元未満株式	普通株式 820,542	-	同上
発行済株式総数	46,918,542	-	-
総株主の議決権	-	43,754	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式115株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) (株)モリタホールディングス	大阪市中央区道修町 三丁目6番1号	2,344,000	-	2,344,000	5.00
計	-	2,344,000	-	2,344,000	5.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,784	5,646
受取手形及び売掛金	² 21,041	13,986
電子記録債権	-	2
商品及び製品	1,891	1,949
仕掛品	3,679	8,073
原材料及び貯蔵品	2,529	3,379
その他	2,541	3,358
貸倒引当金	63	46
流動資産合計	40,404	36,349
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,916	7,011
機械装置及び運搬具（純額）	1,407	1,664
土地	19,268	20,356
建設仮勘定	648	640
その他（純額）	297	324
有形固定資産合計	28,538	29,997
無形固定資産	1,206	1,407
投資その他の資産		
その他	8,025	9,919
貸倒引当金	41	40
投資その他の資産合計	7,984	9,879
固定資産合計	37,728	41,283
資産合計	78,133	77,632

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 13,582	7,999
電子記録債務	2,232	4,883
短期借入金	949	4,613
1年内返済予定の長期借入金	3,146	3,286
未払法人税等	1,886	542
賞与引当金	989	952
役員賞与引当金	143	60
製品保証引当金	273	284
その他	3,704	2,845
流動負債合計	26,908	25,467
固定負債		
長期借入金	5,278	5,175
退職給付引当金	1,837	1,902
役員退職慰労引当金	162	141
その他	4,748	4,961
固定負債合計	12,027	12,181
負債合計	38,935	37,648
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,746	4,746
資本剰余金	3,742	3,743
利益剰余金	31,557	31,719
自己株式	1,056	1,063
株主資本合計	38,989	39,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	961	1,210
繰延ヘッジ損益	9	2
土地再評価差額金	1,774	1,774
為替換算調整勘定	198	130
その他の包括利益累計額合計	1,001	430
少数株主持分	1,209	1,268
純資産合計	39,197	39,983
負債純資産合計	78,133	77,632

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	23,923	23,972
売上原価	17,519	17,441
売上総利益	6,404	6,531
販売費及び一般管理費	¹ 5,269	¹ 5,503
営業利益	1,134	1,028
営業外収益		
受取利息	7	7
受取配当金	39	40
受取賃貸料	45	45
持分法による投資利益	25	18
貸倒引当金戻入額	25	16
その他	57	99
営業外収益合計	200	228
営業外費用		
支払利息	126	119
賃貸費用	18	18
その他	34	34
営業外費用合計	179	172
経常利益	1,155	1,084
特別利益		
固定資産売却益	0	11
特別利益合計	0	11
特別損失		
固定資産除売却損	21	15
投資有価証券売却損	0	-
投資有価証券評価損	150	142
会員権評価損	-	12
特別損失合計	172	170
税金等調整前四半期純利益	984	925
法人税等	470	485
少数株主損益調整前四半期純利益	513	439
少数株主損失()	45	79
四半期純利益	559	519

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	513	439
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24	249
繰延ヘッジ損益	8	9
為替換算調整勘定	25	283
持分法適用会社に対する持分相当額	20	187
その他の包括利益合計	62	712
四半期包括利益	575	1,152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	615	1,090
少数株主に係る四半期包括利益	39	61

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	984	925
減価償却費	549	585
のれん償却額	50	5
貸倒引当金の増減額(は減少)	25	18
受取利息及び受取配当金	47	47
支払利息	126	119
持分法による投資損益(は益)	25	18
有形固定資産除売却損益(は益)	20	4
投資有価証券評価損益(は益)	150	142
会員権評価損	-	12
売上債権の増減額(は増加)	8,424	7,357
たな卸資産の増減額(は増加)	4,904	5,226
仕入債務の増減額(は減少)	3,442	3,230
その他	696	817
小計	1,165	207
利息及び配当金の受取額	51	51
利息の支払額	122	120
法人税等の支払額	1,872	2,118
営業活動によるキャッシュ・フロー	777	2,394
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,249	2,357
有形固定資産の売却による収入	234	24
無形固定資産の取得による支出	50	16
投資有価証券の取得による支出	1	1,429
関係会社株式の売却による収入	52	-
貸付けによる支出	0	8
その他	23	90
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,039	3,878
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	100	3,504
長期借入れによる収入	180	-
長期借入金の返済による支出	102	102
自己株式の取得による支出	4	6
配当金の支払額	489	356
少数株主への配当金の支払額	4	3
その他	5	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	325	3,029
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	69
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,122	3,174
現金及び現金同等物の期首残高	8,667	8,748
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,545	5,574

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年9月30日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
康鴻森田(香港)有限公司	50百万円	79百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	269百万円	-
支払手形	172百万円	-

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
役員報酬及び従業員給料手当	1,625百万円	1,641百万円
賞与引当金繰入額	381百万円	454百万円
退職給付費用	184百万円	175百万円
役員賞与引当金繰入額	53百万円	59百万円
役員退職慰労引当金繰入額	13百万円	12百万円

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

当社グループの売上高及び利益は、消防車輛事業の官公庁向け売上高の占める割合が高いこと等から、下期、特に第4四半期連結会計期間に偏る傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	6,617百万円	5,646百万円
預入期間3ヶ月超の定期預金	72百万円	72百万円
現金及び現金同等物	6,545百万円	5,574百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	490	11.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月30日 取締役会	普通株式	356	8.00	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	356	8.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	401	9.00	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	消防車両	防災	産業機械	環境車両	自転車	
売上高						
外部顧客への売上高	8,022	8,119	2,213	4,351	1,217	23,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	67	154	3	62	0	288
計	8,089	8,273	2,217	4,413	1,218	24,212
セグメント利益	49	686	105	261	8	1,111

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,111
セグメント間取引消去	2
棚卸資産の調整額	20
四半期連結損益計算書の営業利益	1,134

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	消防車両	防災	産業機械	環境車両	自転車	
売上高						
外部顧客への売上高	8,646	7,317	2,232	4,600	1,175	23,972
セグメント間の内部売上高又は振替高	44	177	6	55	0	284
計	8,690	7,495	2,239	4,655	1,175	24,256
セグメント利益又は損失()	274	401	30	394	73	1,027

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,027
セグメント間取引消去	2
棚卸資産の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業利益	1,028

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	12円54銭	11円64銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	559	519
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	559	519
普通株式の期中平均株式数(株)	44,602,208	44,577,886

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成25年10月31日開催の取締役会において、第81期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

中間配当による配当金の総額 401百万円

1株当たりの金額 9円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月2日

(注) 平成25年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月6日

株式会社モリタホールディングス

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 木 勇

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社モリタホールディングスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社モリタホールディングス及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。